

難関国公立大の総合型選抜合格者続々 主体的な行動力を育む 学びの楽しさを知る教育プログラム



23区内最大級の人工芝グラウンドをはじめ、充実した施設が生徒の成長をバックアップします

「人間形成と大学進学」を目標に掲げ、高みをめざす教育で知られる城北中学校・高等学校。早くから導入されたICT教育が効果を発揮し始めており、高い学力と独創的な探究活動等が求められる難関国公立大学の推薦・総合型選抜でも続々と合格者を出しています。そうした生徒を育む教育について、森上研究所の森上展安代表が、小俣力校長、高橋慶臣進学指導部長、坂内浩之広報企画部長にお話を伺いました。



城北中学校・高等学校
校長 小俣 力 先生

挑戦を促すと同時に 生徒の発信力も強化

森上 ここ4年間ずっと受験者数の多い順位の順位を上げていますが、私の知る限り、男子校では貴校だけです。しかも、交通アクセスも向上したようです。

小俣 昨年3月のダイヤ改正で、最寄りの上板橋駅が池袋から1駅目の準急停車駅となり、6分で来られるようになりました。生徒にとって、朝の数分間の短縮はかなりの大きいようです。

森上 子どもを通わせる保護者にとってもうれしいニュースでしょう。とくに今春は、京大や東工大などの総合型選抜で複数の合格者が出て注目されていますから、ますます気になる学校になると思います。改めて、教育の特色をお聞かせください。

小俣 本校では教育目標に「人間形成と大学進学」を掲げています。人間形成に関しては、生徒に様々なことを体験してもらう、何にでも果敢にチャレンジしてもらうことを基本にしています。そして、その経験で得たこと、得たものを自分の言葉で表現し、発信することを通して、自らの成長を自覚できるような仕組みにしています。

森上 具体的な教育プログラムとしてはどのようなものがありますか。

小俣 代表的なものとして、理科の自由研究があります。自由研究ですからテーマは自由ですが、それを理科の授業のなかで指導しながら夏休みの研究につなげ、多くの素晴らしい研究は表彰され冊子にまとめられ、学外コンクールにも出展します。また、特に優秀な研究は文化祭でも発表。さらに講堂でプレゼンをしてもらいます。この取り組みは30年以上続いています。ICTの導入によってさらに進捗しています。

森上 現在の中高生は、スマホやタブレットなどのICT機器は自由自在に扱えますからね。

小俣 かつてはきちんとした資料を用意して発表できる生徒は限られていたのですが、現在ではどの生徒も、実に見事にプレゼン資料を作ることができるようになりました。「私の主張コンクール」と題した弁論大会も実施していますが、単に言いたいことを言うのではなく、客観的な根拠に基づいて、データも示しながら主張することができていると思います。さらに、中3で全員が取り組む「卒業論文」でも、ICTを駆使したプレゼンが見られます。

学びへのモチベーションが 結果的に進学実績に反映

森上 こうして身につけた行動力や発信力は、どのように大学進学につながっていくのでしょうか。

高橋 まず、興味があることに対しては物怖じせずに飛び込んでいく積極的な姿勢が生まれています。近年では、校内外で実施される進学関連イベントに対し、自由参加にもかかわらず参加する生徒の数が年々増加しています。その結果、学びへのモチベーションが高まり、それが受験勉強、ひいてはより挑戦的な志望校選択へとつながっていくのだらうと思っています。

森上 総合型選抜の合格者が増えているのもそうした流れの一つと見ていいのでしょうか。

坂内 はい。全員が1年に2回発表する機会を設け、それ以外の日は問題演習などにあてていました。生物部で飼育している生物が息をひき取った原因を研究した生徒は、国立医学部の推薦に合格しています。こうした自主的な研究を活かして総合型選抜に挑戦している生徒も増えてきました。興味を突き詰め、それをみんなの前で発表する機会がふんだんにあることで、きちんと自分の活動を説明できる力が身についているようです。今年度国公立大の入試では、京大の他にも東工大に1人、東北大に2人、九州大に2人など、総合型選抜で合格しています。

森上 総合型選抜で合格していくような生徒は、やはり選抜クラスの生徒が多いのでしょうか。

小俣 その傾向はありますが、選抜クラス小俣だけではありません。また、生徒のモチベーション向上のために、従来中3では1クラスだった選抜クラスを2クラスに増やしています。一気に絞り込むのではなく、緩やかに絞っていくことで、やる気のある生徒のモチベーションを高め、結果的に生徒全体の意欲を高めたと思っています。



音楽の授業では週に1時間「ヴァイオリン実技」を導入。全員必修として1年間継続してレッスンを行っている

23年度からスタートした 順天堂大学との交流事業も好調

森上 昨年度から順天堂大学との連携が始まったそうですね。

高橋 はい。高校と大学が連携して何か有意義な活動を！というスタンスではなく、まずはお互いのことを知ろうという意味で「交流事業プログラム」と銘打ち、初年度は2回実施しました。第1回目は、順天堂大学医学部附属練馬病院の病理学の先生をお呼びして、お話を伺うという企画でした。



森上教育研究所
代表 森上 展安 氏

病理学に関する講演だけでなく、病名のつけ方のワークショップなども行っていたなど、大変興味深い内容でした。また、医学部に在籍している本校出身の先輩3人との座談会も行い、医学部をめざしたきっかけや順天堂を選んだ理由などを

詳しく話してもらいました。

森上 生徒にとっては身近なロールモデルですから、大いに刺激になったでしょうね。

高橋 約1ヶ月後の第2回目は、本校の生徒が順天堂のキャンパスを訪れ、医学教育歴史館を見学したほか、「外科医を体験する」と題して、実際に医師や医

生が使う手術器具の操作体験も行いました。また、小児外科の先生からは、手術の動画を含め外科手術の実践について講演していただきました。いずれの回にも医学部を志望している生徒50名近くが参加しましたが、アンケートには、「医学部受験に向けて気持ちがめげそうになるときに、これらの体験を思い出し励みにしていました」という声が出るなど、かなりインパクトがあったようです。実際、順天堂を受験する生徒の数は、昨年以前に比べて大きく増えました。

森上 高校生の学ぶ意欲を高め、大学にとって強い意志を持った学生の入学が期待できているという取り組みですね。

高橋 ドクターヘリや地域医療など、テレビドラマなどで脚光を浴びる分野ではなく、地道な日々の医療について具体的に話したくなるようお願いしたこともあって、生徒の医師像もかなり明確になったと思っています。

全員参加の東大ツアーを実施 グローバル教育もさらに拡充

森上 医学部以外の進路をめざす生徒に対しては、何か将来を考慮するようなプログラムを実施しているのですか。

高橋 学校で何か企画するのはなく、大学や各種教育機関等が中学生向け、高校生向けに実施している進学関連イベントを一覧にまとめた上で、生徒は自由に主体的に参加するという形をとっています。今年は東大が一般向けに実施しているキャンパスツアーに中3の全員が参加する計画です。

森上 企業訪問も行っていますね。

坂内 中3で実施しています。約18の企業様にご協力をいただき、その中から、希望する企業を訪問して業務見学・体験を行っています。受け身で参加するのではなく、そこで働く人へのインタビューも行うなど、自ら動かさなければならぬという内容も盛り込んでいます。勉強になったという声が大きくなり、昨年は、中3・高1の2年連続で企業訪問を行いました。

森上 そうなると、さらに主体的に行動する生徒が増えそうですね。近年注目が集まるグローバル教育に関してはどのような取り組みがありますか。

高橋 まず中1・高1を対象に、春休み3日間を英語漬けにする「イ



城北中学校・高等学校
広報企画部長 坂内 浩之 先生



城北イングリッシュ・シャワー。すべて英語でレクリエーションを通して本物の英語に触れていく

坂内 ターム留学は、原則として親や高校の先生とは連絡をとらないようにし、ホストファミリーや現地の学生との生活に没頭して、自立心を高める側面もあります。参加した生徒は目の色を変えて帰国しているように感じます。このなかには東大や京大をめざす生徒も多いですね。

小俣 さらに英語力を高めたい生徒には、毎日マンツーマンで英語を教わる「セブ島プロジェクト」もあります。昨年からニュージーランドの公立中高一貫男子校のタウランガ高校とオンラインでつないで共同授業を行うなどの取り組みも始まりました。

森上 ここ1・2年で、いろいろ新しい取り組みがされているようですね。生徒の視野を広げ、チャレンジを促す取り組みに、今後も注目していきたいと思っています。



城北中学校・高等学校
進学指導部長 高橋 慶臣 先生



城北中学校・高等学校
Johoku Junior & Senior High School

〒174-8711 東京都板橋区東新町2-28-1
TEL.03-3956-3157 FAX.03-3956-9779



www.johoku.ac.jp